

●人間学部の3つのポリシー

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の基本理念は、建学の精神を継承し、学則第1条に「本学は、教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に、さらに教養教育および専門教育を体系的に授けるとともに、人間に対する理解を深め、広く社会と地域に貢献できる人材を育成すること」と表現されています。

人間学部（以下本学部）は、この教育理念を受け、本学部の課程において124単位以上の単位取得と必修等の条件を充たし、次のような能力・資質を備えた人物に対して学位を授与します。

(1) 人間の多様性を理解し受け入れる能力（多様性理解）

心と行動の多様性と可塑性を理解し、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、地域社会の一員として考え、行動できる。

(2) 自律的で意欲的な態度（自律性）

キャリアにおける目標を持ち、その実現のために考え、意欲的に、かつ責任をもって行動することができる。

(3) コミュニケーション力

人間に共通する心的作用や行動パターンから心と行動の普遍性を理解したうえで、さまざまな人々と協働して問題解決にあたることができる。

(4) 専門的知識・技能の習得

心理学および心を生み出す身体の機構、心を取りまく社会についての基本的知識と技能を習得している。

(5) 地域や他者に能動的に貢献する姿勢（地域貢献性）

地域や他者のために主体的・積極的に行動し、貢献することができる。

(6) 問題発見・解決力

さまざまなツールを活用して情報収集や情報分析ができ、客観的なデータに基づいて問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりすることができる。

2. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部では卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる目標を達成するために、教養科目、キャリア教育科目、専門科目、特殊演習・ゼミ・卒論を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。

1) 教育内容について

(1) 「教養科目」

ディプロマ・ポリシーで挙げた6つの能力・資質のうち、①多様性の理解を主として担う科目です。

「教養科目」のうち「語学科目」は、国際社会のみならず地域社会に生きる外国人とのコミュ

ニケーションを実現するための科目です。グローバルな共通語である英語と、滋賀県とも関連の深い中国の言語である中国語を学びます。また、日本語で正確かつ論理的に文章表現する力を育成するための科目も設置します。

「情報処理科目」では、現代社会では欠かせないコンピュータを用いた情報処理の基本的スキルを獲得します。

「人文科学領域科目」「社会科学領域科目」「自然科学領域科目」「体育・健康領域科目」では、幅広い教養やさまざまな立場におけるものの見方の獲得を目的とし、現代社会における広範な問題の理解のための基礎的視点や考え方を学びます。

「留学生科目」は留学生を対象とした科目であり、留学生が日本で学び、深くコミュニケーションできるようになるための実践的日本語力の育成を目指します。

(2) 「キャリア教育科目」

ディプロマ・ポリシーで挙げた6つの能力・資質のうち、②自律性および③コミュニケーション力の育成を主として担う科目です。

「キャリア教育科目」では、初年次教育を通して大学への適応をはかるとともに、社会に出てからのコミュニケーション・スキルを身につけます。また、自分のキャリアについて自律的・主体的に考え、社会に向けて一歩踏み出す力を身につけます。

(3) 「専門科目」

ディプロマ・ポリシーで挙げた6つの能力・資質のうち、④専門的知識・技能の習得を主として担う科目です。

心理学および心を生み出す身体の機構、心を取りまく社会についての基本的知識と技能を習得するため、「心理学科目」と「心理学関連科目」からなる「専門科目」を配置し、1年次から4年次まで段階的に配当します。「心理学科目」は「心理学学習の基礎をつくる科目」「人間心理を探究する方法を学ぶ科目」「状況に応じた心の動きを学ぶ科目」「他者を支えるスキルを学ぶ科目」からなっており、「心理学関連科目」は「地域や社会の仕組みや動きを学ぶ科目」「身体の仕組みや運動を学ぶ科目」「運動を支えるスキルを学ぶ科目」からなっています。

(4) 「特殊演習・ゼミ・卒論」

ディプロマ・ポリシーで挙げた6つの能力のうち、⑤地域貢献性および⑥問題発見・解決力の育成を主として担う科目です。

「プロジェクト演習」では心理学および心を生み出す身体の機構、心を取りまく社会についての知識と技能を活用するための実践的学修をします。また、「専門演習」では担当教員の指導を受けながら、これまでの活動や学修の集大成として卒業論文を作成します。

2) 教育方法

(1) 初年次教育

初年次教育の大きな狙いを課題解決型アクティブ・ラーニング実施の基礎となるチーム・コミ

コミュニケーション力と言語表現力の育成に置き、反復学習を重視した教育方法を実施します。

(2) 専門科目

主体的な学びの力を高めるために、「専門科目」「特殊演習・ゼミ・卒論」を中心にアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。

(3) 学生による到達度の自己認識

卒業までに修得すべき汎用的能力を測定する検査を各年度末に行い、学修到達度（成長した点と改善が必要な点）を明らかにします。検査と合わせて、ゼミ担当教員との個人面談を実施し、これまでの学修の振り返りや進捗管理を行います。

3) 教育評価

(1) 進級要件

2年次終了時に、3年次以降で学修する高度な専門科目や専門演習に取り組む基礎力があるかどうかを判定します（進級判定）。進級判定に用いる指標は、総取得単位数および指定した専門科目の単位修得です。

(2) 卒業要件

4年間の課程のなかで124単位以上の単位修得と必修等の条件を満たしているかどうかによって判定します。このほか、履修規程に定める累積GPA基準値を超えていることも原則として求めます。

3. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本学部は心理学を基盤とした「人間に対する深い理解と、その理解に基づく社会・地域貢献ができる人材」の育成をめざし、そのためのディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを定めています。これらポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校までの教育課程を幅広く修得している。

(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語」や「英語」、「数学」などの学習活動に真摯な態度で積極的に取り組んできた。

(3) 心身の発達と健康、豊かな対人関係の構築、自他の充実した生活づくり、地域のスポーツ・文化の発展・創造・継承等の問題に対する関心と学修意欲を持っている。